

# 令和3年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立中和小学校
校長名	寺崎 康子

## 1 本校の学力に関する状況

### (1) 墨田区学習状況調査結果から (平均正答率は、別表参照)

成 果	課 題
<p>1 国語科は、どの学年も平均正答率が目標値、全国平均正答率を上回った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第2学年は、全3観点で平均正答率が目標値より9.4ポイントから14ポイント高い。特に「主体的に学習に取り組む態度」の平均正答率は全国平均正答率より18.5ポイント高かった。</li> <li>第3学年は、全3観点で平均正答率が目標値より4.9ポイントから8.4ポイント高い。特に、「主体的に学習に取り組む態度」の平均正答率は全国平均正答率より14.4ポイント高かった。</li> <li>評定別人数比では、AB層が第2学年は79.1%、第3学年は62.1%、第5学年は60.3%、第6学年は50%と全体の半数以上を占めた。</li> <li>本校は、ここ数年、児童の読解力の向上が課題であったため、昨年度より校内研究で「読解力向上のための指導の在り方について～「取り出す」「まとめる」「考えをもつ」「表現する」活動を通して～」を研究主題として授業研究に取り組んできた。特に、新聞を活用した読解力向上、学校図書館の整備及び読書のすすめ、言語環境の整備など、学校全体で共通理解のもと取り組んだ成果と考える。</li> </ul> <p>2 社会科では、第5学年の2観点で平均正答率が目標値、全国平均正答率を上回った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特に、「知識・技能」の平均正答率は目標値より4.3ポイント高く、全国平均正答率より11.5ポイント高かった。</li> </ul> <p>3 算数科は、第2, 3, 5学年の平均正答率が目標値、全国平均正答率を上回った。また、第6学年は、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の2観点で平均正答率が目標値、全国平均正答率を上回った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第2学年は、全3観点で平均正答率が目標値より10.7ポイントから16.6ポイント高い。特に、「主体的に学習に取り組む態度」の平均正答率は全国平均正答率より15.3ポイント高かった。</li> </ul>	<p>1 国語科は、どの学年も大きな課題は見つからない。今後も昨年同様の取組を実施し、「知識・技能」を身に付け、「主体的に学習に取り組む態度」を築きながら表現力を磨いていく。</p> <p>2 社会科は、第4, 6学年の2学年が、全3観点の平均正答率が目標値、全国平均正答率より下回った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2学年とも「主体的に学習に取り組む態度」の1観点で平均正答率が目標値よりも低かった。</li> <li>評定別人数比では、AB層が第4学年が44.5%、第6学年が36.9%と全体の半数を切り、DE層が多くなった。</li> <li>2学年は、「知識・技能」の観点で、平均正答率が全国平均正答率より7.3ポイント低く、さらに「思考・判断・表現」も低いことが共通している。</li> <li>基礎基本である「知識・技能」の定着が図れなかったこと、資料の読み取りができていない児童が多かったことが課題である。</li> </ul> <p>3 算数科は、第4学年の平均正答率が「知識・技能」の観点で目標値を0.8ポイント上回ったが、全国平均正答率より0.4ポイント低かった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特に、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の2観点の平均正答率は、目標値、全国平均正答率を下回った。</li> <li>基礎基本である「知識・技能」の定着のため、学習後の振り返り学習を徹底する。</li> <li>第4学年は、評定別人数比のB層が44.4%、D層が40%と多い。どちらも、A層またはC層に引き上げる必要がある。放課後学習や中和塾を活用し、個の理解度に合わせて対応していく。</li> </ul> <p>4 理科は、第4, 5, 6学年の3学年とも、全3観点で平均正答率が、目標値、全国平均正答率を下回った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第6学年では「知識・技能」の観点で、平均正</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3学年は、全3観点で平均正答率が目標値より8.1ポイントから11.1ポイント高い。特に、「思考・判断・表現」の平均正答率が全国平均正答率より15.3ポイント高かった。</li> <li>・第5学年は、全3観点で平均正答率が目標値より5.5ポイントから9.2ポイント高い。特に、「主体的に学習に取り組む態度」の平均正答率は全国平均正答率より8.6ポイント高かった。</li> <li>・評定別人数比では、AB層が第2学年は83.3%、第3学年は70.7%、第5学年は65.6%と全体の半数以上を占めた。</li> <li>・本校は、低学年から習熟度別少人数指導を導入し、低学年で3展開、中、高学年で4展開と少人数が実施したことがよい成果となった。</li> </ul> <p>4 理科は、第4, 5, 6学年の3学年とも平均正答率が目標値、全国平均正答率を下回った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第5学年は、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の2観点、第6学年は、「知識・技能」の1観点の平均正答率は目標値まで僅差だった。</li> </ul> <p>5 今年度、初めて調査した第6学年の英語は、「知識・技能」「思考・判断・表現」の2観点で平均正答率が目標値、全国平均正答率を上回った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評定別人数比では、AB層が73.9%と全体の半数以上を占めた。3年前より英語担当教師による外国語授業を実施したり、第4学年では東京英語村での体験授業を行ったりしてきたことがよい成果となった。</li> <li>・毎年2月には、国際理解教育として外国のネイティブ teacher との交流学习を実施し、英語への興味関心を高めたこともよい影響である。</li> </ul>	<p>答率が目標値より僅差ではあったが低い。特に、「主体的に学習に取り組む態度」の観点は3学年とも共通して低い。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評定別人数比では、AB層が第4学年が26.7%、第5学年が47.6%、第6学年が37%と、全体の半数を切り、DE層が増えている。</li> <li>・基礎基本である「知識・技能」の定着が図れなかったこと、児童によってはテスト問題への理解度の不足などが見られる。</li> </ul> <p>5 英語は、「主体的に学習に取り組む態度」の1観点の平均正答率が、目標値を上回ったものの、全国平均正答率には届かなかった。</p>
--	---

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<p>1 授業の予習・復習をする児童では、どの学年も自校平均が全国平均を上回っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宿題内容に予習・復習を入れて児童自身が意識して行えるようにしていく。</li> </ul> <p>2 テストの見直しは、自校平均が85%に近く、全国平均を上回り、定着してきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の中でも、テストの見直しを実施する。</li> </ul> <p>3 ノート指導は、各学年とも自校平均が全国</p>	<p>1 家庭学習の日数では、第3学年以上の自校平均が全国平均を下回っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校で実施している生活リズム期間の調査や各担任の確認では、どの学年も定着が80%以上であるので、今後も定着度をみていく。</li> </ul> <p>2 第3学年は、「社会性(規範意識、思いやり、発信力)」の肯定値が全国平均を下回った。「生活習慣、学習習慣、学習意欲」の肯定値も全国平均を下回った。</p>

<p>平均を上回った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中和の学習スタンダードでも示している。今後も徹底していく。</li> </ul> <p>4 将来の夢や希望については、第2, 3, 4学年の90%以上が「あんな人になりたい、こんなことがしたい、こんな仕事につきたいという夢や目標」をもっていると答えている。毎年、この項目の肯定感が高い。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第5, 6学年は、自校平均が全国平均より0,1から0,3ポイントと僅差で低い。</li> <li>高学年になると、夢や希望が現実と比較して考えるようになるため、出前授業などを活用して児童の考える手立てとしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>わんぱく世代の第3学年は、日々の学校生活の中で、担任の工夫した取組みや道徳授業及び学級指導により育んでいかなければならない。</li> </ul> <p>3 第4学年は、「学習習慣、学習意欲」の肯定値が全国平均を下回った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高学年に向かう狭間にある、第4学年では重要な項目の学習習慣、学習意欲である。この学年でしっかりと身に付けさせたい。後期の学習では、学ぶ楽しさを味合わせることで、学習への興味関心を高めていく。</li> </ul> <p>4 第5学年は、「先生の支え、成功体験と自信、充実感と向上心」の肯定値が全国平均を下回った。また、「学級の規範意識、学級の絆、対人ストレス」の肯定値も全国平均より低い。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童の助け合い、教え合い、励まし合い、認め合いなど、児童同士の密な関わりを通して、互いのよさを見つける学級、学年経営に重点を置く。</li> </ul> <p>5 第6学年は、「充実感と向上心」「学級環境」の肯定値が全国平均を下回った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>下学年のために活躍する立場である、第6学年はみんなのために働く活動を通して、学校の顔としての自信と充実感を味わえるような活動内容を考え、体験させる必要がある。また、学級や学年としての仲間意識を育み、小学校生活最後の一年を充実させていく。</li> </ul> <p>6 第5, 6学年は、宿泊行事や学校行事を通して成功体験を積むとともに、体験学習を通して友達との関わり方を学ぶ機会をつくる。</p>
--	---

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<p>1 学習状況は、社会科・理科を除いて一定水準を上回っている。特に、第2, 3, 5学年は、国語科・算数科でどの観点も平均正答率が、全国平均率を5ポイント以上上回っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全校で実施する振り返り学習、今年度より実施したB層をA層に上げるチャレンジ教室である中和塾、誰でも参加できるタブレット活用の放課後学習が定着してきた。</li> </ul> <p>2 楽しい学校生活の基盤をつくり、落ち着いた学習態度が育まれている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>どの学年も全国肯定率が高い。</li> <li>年3回、生活リズム確認旬間で「家庭学習」の項目を入れた意識向上を図っている。</li> <li>毎週、各学年の学習予定を家庭に提示し、家庭学習項目を入れて予習復習の意識向上を図っている。</li> <li>学校生活のきまり、安全な生活への声かけなど、毎週の週目標と連動させ、規範意識を高め</li> </ul>	<p>1 9月からは、社会科・理科の学習に重点をおいた振り返り学習を全校で実施する。</p> <p>2 低学年から家庭学習の定着を図る。学習のやり方を学ばせ、保護者の協力をいただく。</p> <p>3 楽しい学級・学年づくりを基盤とし、学習する体制を整える。</p> <p>4 「学級の規範意識」「学校のきまりを守る」という視点から、教職員の共通理解のもと、学校全体で規範意識を高める。</p> <p>5 「自分から・自分で」できる風土をつくる。</p> <p>6 「友達との関わり方」「優しい言葉かけ」など、体験活動や兄弟学年の関わりの中で、人との関わり方、人の役に立つ体験を実施し、豊かな心の育成を強化する。</p>

<p>ている。</p> <p>3 まとまりのある学級・学習意欲の高い学年は、状況調査及び意識調査もよい結果が出ている。</p>	<p>7 担任教諭だけでなく、学校全体で児童を育てる意識のもと、より児童理解を重要視しながら、「共に遊ぶ・共に話す・共に行動する」ふれあいを大切にしていける。</p>
---	---

## 2 本年度の学力向上に関する主な取組

### (1) 学力調査の結果から、各教科の課題へ取り組み

#### 【国語】

- 1 学校図書館の充実を図り、読む環境を整える。全校で読書する時間を設定する。
  - 2 理解したり表現したりするために必要な文字や語句については、第3学年以上からマイ辞書や辞典を持たせ、普段から活用する。また、調べる活動を取り入れて指導していく。
  - 3 「読む能力」「書く力」に関しては、作文・文法の「ふりかえりシート」、文章読解のプリントを活用する。
  - 4 学校行事や読書指導と関連させて、作文や感想文、意見文など文章全体の構成や展開を考える指導を充実させることで表現力を高めていく。
- 毎日の授業の中で、言語の特徴や使い方について、文章の構成を捉え、内容の要約をする活動を取り入れ、「言語についての知識・理解・技能」を高めていく。
- 各学年が言葉の意味や漢字の読み書き、語句と語句との関係、接続語や指示語など文章をつなげる言葉について「ふりかえりシート」を活用して、確実に定着させる。

#### 【社会】

- 1 特に9～10月は、前学年の既習事項について、振り返り学習を徹底する。
  - 2 絵図、グラフ、写真などの資料の見方、読み取り方など、色々な資料を複合的に見る力を授業展開の中で重視しながら学習を進めていく。
  - 3 授業の終末には、振り返りやまとめの場面を取り入れ、確認問題や「ふりかえりシート」を使って学習の振り返りを丁寧に行い、学習内容の定着を図る。
- 児童一人一人に「どうして」という「大きなハテナ？」をもつ課題をもたせ、課題解決的な学習を行い、社会的な見方や考え方を身につけさせるようにする。
- ICT機器やタブレットを活用して、児童に興味関心をもたせるような教材を作成し、指導の充実を図る。

#### 【算数】

- 1 児童同士の学び合い活動を取り入れ、「数学的な考え方」及び「数量や図形についての技能」を高めていく。
  - 2 習熟度に合わせた問題が自力解決でき、「わかった」という達成感を積み重ねて、さらに発展問題に挑戦させる。解き方について説明できるようにする。
  - 3 授業の終末には、振り返りやまとめの場面を取り入れ、確認問題や「ふりかえりシート」を使って学習の振り返りを丁寧に行い、学習内容の定着を図る。
- 「算数への関心・意欲・態度」を高め、自分の考えを表現する力を身につけさせるために、具体物を操作したり日常の事象を観察したり、児童にとって身近な算数の問題を解決したりするなど、具体的な体験活動を積極的に学習に取り入れていく。
- ICT機器やタブレットを積極的に活用し、基礎的・基本的な事項を確実に身につけさせるようにする。

#### 【理科】

- 1 9～10月、前学年の既習事項について、振り返り学習を徹底する。
- 2 担任教諭と理科講師とのより連携した授業の展開や観察・実験を通して理科学習への興味

関心を高めていく。

- 3 自然事象を体験的に学ばせるためのへの環境を整えていく。
  - 4 観察・実験を通して自然事象を体験的に学ばせたり科学的な問題に解決しようとする活動を取り入れたりして、日常生活や他教科等との関連を図った学習活動にしていく。
- タブレットを活用し、一人一人の児童が主体的に問題解決の活動を行うことで、「自然事象への関心・意欲・態度」を高める。
  - 授業の終末には、振り返りやまとめの場面を取り入れ、確認問題や「ふりかえしシート」を使って学習の振り返りを丁寧に行い、学習内容の定着を図る。
  - 問題を見だし、予想や仮設、観察・実験などの方法について考えたり説明したりする学習活動を重視し、体験的な活動をもとに知識・技能の習得を目指していく。

#### 【英語】

- 1 どの学年も、昨年同様の取組を実施しながら、「知識・技能」を身に付け、英語の楽しさを見出せるようにしていく。
  - 2 全校タブレット学習では、第3学年以上はローマ字でのタイピング練習を始める。
  - 3 英語担当教師による外国語授業を実施したり、第4学年では東京英語村での体験授業を行ったりする。
- 毎年2月、国際理解教育として外国のネイティブ teacher との交流学習を実施し、英語への興味関心を高める。

## (2) 学力向上のための主な取り組み

#### 【基礎的・基本的な学習内容の定着】

- ◎基礎学力補充を重点とした「放課後学習クラブ」、B層をA層に引き上げるチャレンジ学習である「中和塾」を実施する。どちらも学習支援指導員が「放課後学習クラブ」では基礎学力の定着、学習内容の補充指導が必要な児童を対象に、週2日国語・算数を中心にタブレットを活用して基礎・基本の定着を図る。また、「中和塾」では、週2日児童の学習意欲を高め、少し高い課題に挑戦し、自力解決力を高める。
- ◎第1・第2学年でも、3展開の習熟度別指導を実施する。  
特に、DE層の児童に対しては、学習支援指導員と連携し個に応じた学習支援したTT指導を行う。また、授業では確認問題や「ふりかえりシート」等を繰り返し行い、基礎学力の定着を図る。
- ◎どの学年もタブレットでのミライシード学習を実施する。
- 教師が全児童のよさを認め、励まし、肯定的な言葉かけや指導を心がけ、互いに支え合う温かい学級づくりに重点を置く。
- 全校学力状況調査（6年）、区学習状況調査（2～6年）、東京都児童の学力向上を図るための調査（4, 5, 6年）の事前指導を行う。前学年の学習内容や調査問題の復習や学力調査の受け方・心構えなどを指導する。
- 単元ごとにレディネステストを実施し、児童の実態に応じたクラス分けを行い、習熟度別指導の充実を図る。
- 夏季休業中（7月）には夏季オープンスクールを実施し、児童の学力向上を図る。

#### 【思考力・判断力・表現力を高める工夫】

- ◎校内研究では「読解力向上のための指導の在り方について ～「取り出す」「まとめる」「考えをもつ」「表現する」活動を通して～」を国語科の読解力の育成に限らず、社会科の2教科で授業を行っていく
- ◎理科の「観察・実験」の補助として、理科講師をTT指導を行うことで、観察・実験を充実させる。
- ◎読書旬間を年2回（6月・11月）実施し、読書の習慣を育て、想像力や語彙力を豊かにしていく。また、5, 6年の図書委員会が中心となって「読書ビンゴ」を開催するなど、読書に対する興味関心を高め、読み取る力を育成する。

- 各教科の単元や領域の学習内容にそって、外部講師やゲストティチャーや学校支援ネットワーク事業を活用した出前授業などを実施する。講師の経験や体験に基づいた専門的な話を聞くことにより、児童の学習への興味・関心を高めるようにする。
- 単元ごとにレディネステストを実施し、児童の実態に応じたクラス分けを行い、習熟度別指導の充実を図る。

#### 【読解力の向上】

- ◎低中学年中心に、ことば集めやしりとり、ひらがな歌づくり、オノマトペ遊びなど、ことば遊びを行う。
- ◎全学年で週刊新聞読み取りワークシートを活用して、発達段階に合った時事問題を取り上げた記事と読み取り課題に取り組み、読解力を高める。
- ◎全学年で「図書館を使った調べる学習」に取り組み、出来た作品を掲示して、見合うことで調べる学習の楽しさやよさを知り、調べる学習への意欲を高める。
- 地域図書館との連携による読書月間を設定し、読書の質と量を上げる

#### 【家庭学習習慣の確立】

- ◎家庭学習にタブレット学習（ミライシード）を入れ、学びの自主性を育てる。
- 「生活リズム確認旬間」を年3回（5月・9月・1月）設定し、「早寝・早起き・朝ごはん」を家庭で徹底させる同時に、家庭学習の振り返りを保護者にチェックしてもらうことにより保護者に対しても家庭学習への意義をもっていただく。家庭学習を含めた生活リズムを整え、学習に向き合う態度を育てる。

#### 【教員の授業力向上】

- 特色ある学校づくり推進校として、研究主題「読解力向上のための指導の在り方について～「取り出す」「まとめる」「考えをもつ」「表現する」活動を通して～」に基づき、各学年が授業研究を行う。
- ◎研究 OJT では、校内研究前の授業研究を実施した後、事前授業を行うことによって、授業内容を理解して校内研究に臨み、協議会で活発な意見交流ができ、教師力を磨く機会となる。
- 夏季休業中には、模擬授業として教師一人一人の授業力を高める。習得・活用を意識した授業展開を学び、児童が興味・関心を高める授業を創造する。
- 児童の学習意欲を高めるための OJT 研修（外国語科の授業づくり・ディベート学習・タブレット学習・特別支援教育の指導法など）を実施する。
- 教師のための OJT 研修（ショート・ロング）では、若手教諭の悩みごと、自学研修を基本とするショート OJT を週1回、主幹及び中堅教諭が講義するロング OJT を月1回開き、コミュニケーションを大切にする。

### （3）学習指導の重点

- 「中和学習スタンダード」に基づいた学習スタイルを継続していき学習規律の徹底に努める。
- 1 単位時間に、習得させること（教えること）と活用すること（学んだことを使って活動）を意識した授業に務める。
- 各教科等において、ICT 機器やタブレットを活用した教材の工夫や指導の充実・改善を図る。

## 3 「令和4年度 墨田区学習状況調査」における目標

- 1 読解力向上に向けて、学年ごとの取り組みを明確化していく。
- 2 低学年からの基本的な学習内容の定着を丁寧に行い、学習意欲を高めていく。
- 3 学力（B層をA層に）を引き上げる授業改善、学校の取組を積極的に行う。
- 4 振り返り学習、ステップアップ学習シートを活用して学力の定着を図る。